

令和7年度 学校評価書

学校名（東温市立北吉井小学校）

令和8年2月2日

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子の育成（ふるさとを愛し「誰もが明るく元気に過ごし続ける力」「幸せや生きがいを感じながら生きる力」の育成）』
- 2 経営の基本方針 子供の成長 安全・安心を中核に据え 「家庭・地域との連携・協働」を推進しながら（1）元気な子を育てる(自律)（2）一生懸命な子を育てる(勤勉)（3）やさしい子を育てる(協力) を育てる。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員より
	太字:重点項目		教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さな変化やトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応し、組織的に未然防止及び課題の早期発見・早期解決に努めている。	3.74	3.41	3.18	○ 児童・保護者の評価値は昨年度とほぼ同等であった。「いじめ・不登校等への対応」については、生活アンケートや教育相談、児童との日常からの関わりから悩み等を把握し、いじめの早期発見早期対応に努めている。また、いじめを認知した場合は、早期解決に向けて組織的・継続的に対応を行ってきた。保護者からは「先生が丁寧に子供に接してくれている」「先生たちのおかげで充実した学校生活を送れている」といった肯定的なコメントがあり、学校の生徒指導対応に理解が得られている。 ● 挨拶については、教職員と保護者の評価値が低い。保護者から「挨拶をしても挨拶を返してくれる子がほとんどいない」というコメントが寄せられた。教職員も挨拶をする子としない子がいることや声の大きさに課題があると捉えており、今後、具体的方策を考え、進んで挨拶をする態度を育てていく必要がある。	【総評】全ての項目において、教職員の思いや日々の活動の努力が児童や保護者に届いているように感じた。また、児童の評価が高いのは良い傾向である。子供を中心に据えた教育の在り方を大切にしている北吉井小学校の今の体制をこれからも継続してほしい。
	基本的生活習慣の定着	心を込めた挨拶や返事、会釈の定着を図っている。	3.21	3.31	3.03		
	相談体制の充実	一人一人の児童の変化を見逃さず、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談や保護者参加のケース会議等をチームで対応している。	3.77	3.25	3.25		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番がある学習や活動の場を工夫し、タブレットアプリを活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.45	3.35	3.21	○ 児童・保護者の評価値は昨年とほぼ同等であった。「学び合い・振り返りのある学習」を重点項目として、指導の工夫・改善に努めてきた。本年度も問い掛けの学習課題設定と、考えや分からないことを聴き合ったり、理由を聴きながら考えを練り合ったりする「いわがらタイム」を設定し、主体的・対話的で深い学びに向かう授業の実践に努めた。また、問い掛けの学習課題を設定することで、児童の思考力・判断力・表現力の育ちが成果として表れつつある。 ● 家庭学習の習慣について課題意識を持っている保護者と教職員がいる。家庭において児童がしっかりと学習し、基礎的な学力が定着するよう、効果的な自主学習を工夫していきたい。	【生徒指導】いじめ対応や相談等について、きめ細かくかつ丁寧に取り組んでいる。教職員の努力と保護者の捉え方に差があるのが気になるが、教職員が児童一人一人に十分向き合うなど、生徒指導に対する教職員の意識が高いことは良い傾向である。
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や取り組み方について全校の共通理解の基、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.08	3.37	2.95		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えを伝えたり、分からないことを尋ねたりしながら学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.47	3.39	3.14		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.16	3.68	3.32	○ 全項目で、特に児童の評価値が高い。また、保護者の評価値は昨年と同等である。地域コーディネーターと連携・協力しながら、ゲストティーチャーを招いたり、地域に出かけたりする学びの機会を設け、体験活動を充実させることができた。また、人間関係を広げるために、1年生を迎える会やフレンド集会など異学年集団や遠足、校外での見学などを積極的に行った。このような活動の積み重ねが、より良い仲間づくりや集団づくりにつながっている。 ● 教職員の評価値は、昨年度に比べて大幅に下がった。教職員から、「早寝、早起き、朝ご飯の意識付けは不十分な部分も多い」「睡眠不足の児童が多いように感じる」という課題があげられた。学校での指導はもちろんであるが、家庭と連携するとともに健康づくりへの啓発を行ってきたい。	【豊かな心、健やかな体】子供自身が、自分のことを大切に思い、友達のことも尊重する人として育ってきている。地域との交流を深める学習やフレンド集会等工夫を凝らした取組を進めている。 【特別な支援教育】児童の実態や特性に合わせて適切な支援を考えて実践できている。上浮穴高校と連携・協力したカホンづくりは、非常に良い取組である。児童にとって「できない」が「できる」に変わり大きな自信につながっている。 【安全・安心な教育環境】登下校のときに、地域の方々や教職員が様々なところで児童を見守っており安心してしている。 【家庭・地域との連携】地域コーディネーターを中心に、地域の歴史を学んだり、伝統文化に触れたりする地域人材を活用した学習が積極的に展開されている。
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.51	3.66	3.43		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	3.08	3.34	3.33		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自立心の育成を図るために行事を工夫して行っている。	3.24	3.55	3.37		
特別な支援教育	特別な支援教育の充実	校内支援体制を整備し、専門家や校内スタッフの情報を参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	3.71	3.18	3.10	○ 本校には通級指導教室が二つあり、自校通級の良さである学級担任と通級指導担当者とのチーム支援が充実している。通級指導教室を利用している児童が、学習や生活上の困難を解消するとともに、全教職員が特別な支援教育への理解を深め、一人一人の安心感や自己肯定感を高めることにつながっている。 ○ 特別な支援学級では、上浮穴高等学校と連携・協力し、カホンづくりを行い、こころきりらりに集会において合唱を披露した。良好な人間関係づくりや楽器を使って音色を奏でることの楽しさを学ぶことができた。	【特別な支援教育】児童の実態や特性に合わせて適切な支援を考えて実践できている。上浮穴高校と連携・協力したカホンづくりは、非常に良い取組である。児童にとって「できない」が「できる」に変わり大きな自信につながっている。 【安全・安心な教育環境】登下校のときに、地域の方々や教職員が様々なところで児童を見守っており安心してしている。 【家庭・地域との連携】地域コーディネーターを中心に、地域の歴史を学んだり、伝統文化に触れたりする地域人材を活用した学習が積極的に展開されている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.63	3.55	3.58	○ 登下校の安全確保については、三者の評価が高い。保護者コメントでは、「先生や地域の方々に見守られながら安心して通うことができている」という声が寄せられており、児童・保護者の安心感につながっているようである。今年度は、とうおんハート救命プロジェクト事業指定校となり、愛大病院や東温市消防署と連携・協力して救急シミュレーション訓練に取り組み、児童の命を守る救急対応の仕方や体制の見直しを図った。 ● 登下校時の見守り活動については、教職員の負担を心配する声が地域・保護者から上がっている。学校運営協議会において、地域・保護者に登下校時の見守り協力について検討している。	【安全・安心な教育環境】登下校のときに、地域の方々や教職員が様々なところで児童を見守っており安心してしている。 【家庭・地域との連携】地域コーディネーターを中心に、地域の歴史を学んだり、伝統文化に触れたりする地域人材を活用した学習が積極的に展開されている。
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.67	3.69	3.36		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.69	3.47	3.31		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとCSの推進	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされ、「地域とともにある学校」の実現に努めている。	3.68	3.49	3.41	○ 地域コーディネーターに週1回（1時間）来校いただき、職員室で職務に当たってもらった。このことにより、地域連携教育主任だけでなく、各学年の担当者の連携がより円滑となり、地域人材を生かした授業の展開や地域の教育資源を生かした学びの推進に大変役立ち、教職員の負担軽減にもつながった。 ○ 学校行事等を終えての児童の感想などを掲載した学校だよりや活動の様子を伝えるホームページの毎日の更新によって、学校の様子を積極的に発信することができた。	【家庭・地域との連携】地域コーディネーターを中心に、地域の歴史を学んだり、伝統文化に触れたりする地域人材を活用した学習が積極的に展開されている。
	情報の共有化	学校だよりやホームページ等で、児童の様子について積極的に学校の様子を伝えて情報の共有化に努めている。	3.87	3.36	3.40		
特色ある学校づくり	P T A の積極的な学校運営への参画	P T A 活動への主体的な参画を通して、教育活動の充実や効率化などを推進している。	3.34	3.34	3.37	○ P T A が主体となる「P T A 学校支援事業」が4年目となった。マチコミメールで参加を募ることで、様々な行事や校外活動等で保護者の積極的な協力をいただき、教職員からは「多くの保護者の協力があり、ありがたい」と声が上がっている。合言葉「できる人が、できる時に、できることを、楽しんで」が浸透してきている。	【特色ある学校】P T A 学校支援事業に参加される保護者の方も増えていることはとても良い傾向である。
施設・設備の充実	I C T の有効活用	I C T を活用して、授業や校務の効率化を図っている。	3.34	3.67	3.31	○ 毎月の安全点検を通して、早期に潜在的危険箇所を発見し、複数体制で修繕を行った。自己修繕が難しい場合は市教委に連絡し、速やかに対応していただいた。 ● タブレットの様々な不具合が頻発し、教職員と保護者からの問い合わせが多かった。市教委とも連携しながら今できる対応を適切に行っていきたい。来年度、児童用タブレットは新しくなる予定である。	【施設・設備】I C T に関してタブレットを活用することで、授業の効率化が図られており、児童・保護者からも高評価である。
	施設・設備の安全管理	清掃活動や安全点検等において潜在的危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.26	3.62	3.38		

